

平成 28 年度 テーマ別まちづくり移動町長室（二宮町商工会青年部）

日 時 平成 28 年 4 月 15 日（金）19 時～21 時  
場 所 商工会館 3 階会議室  
団 体 二宮町商工会青年部  
参加者 12 名

団体の説明など（二宮町商工会青年部長より）

青年部は商工会の下部組織であり、若手の経営者・後継者・従業員を構成員として活動している。二宮町では現在 24 名の部員がいる。

主な活動として一番は、今年で 32 回目となる「ふれあい広場」で、今年は 10 月 16 日（日）の開催予定である。その他、町や他団体の開催するイベントへの参加協力を行っている。

また、年 3 回、部員研修会を実施しており、今回の移動町長室はこの部員研修会の一環として開催を申し込ませていただいた。部員は町のことをよく知っているようで知らないこともあるだろうし、青年部のことがよく分からないということもあると思うので、町との理解を深め有意義な時間としたい。

意見交換

青年部活動について	
団体参加者	<p>青年部では、1 年間の事業計画案を立て、地域イベントに参加し地域貢献のために活動している。</p> <p>昨年度の活動の主だったものでいうと、4 月夜桜ライトアップ時に出店、5 月ふれあい広場実施、ごみゼロキャンペーン参加、6 月主張大会、11 月商工まつり、1～2 月菜の花ウォッチング時の足湯実施などがある。</p> <p>ふれあい広場は、子ども職業体験というコンセプトで、子ども達にいろんな職業に興味を持ってもらえるように、主に町内の職業人に声をかけて体験する場を提供している。</p> <p>町と係る事業が多いが、町民・町職員は青年部がこうした活動をしていることを知ってもらえているのだろうか。各自の仕事がある中で、町のためにやっているし、やるからには人に良かったと思ってもらいたい。</p> <p>町として青年部の活動をどう思っているか。活動の印象や、他にやってほしい活動があれば挙げていただきたい。</p>
町長	<p>それぞれの現場で活動を見ているしよく知っている。最近は特にふれあい広場がグレードアップして、子どもたちの保護者からも楽しみにしているとの声を聞いている。子どもの職業体験は実際にやろうとなると難しく、青年部だからこそできていると思うし、それらは町民にも伝わっていると思う。</p>

	<p>子ども会への参加率が低下している中で、子ども会祭りといっしょにできたりしたらいいのではないかと思う。</p> <p>今回、夜桜ライトアップに行った際に青年部の出店がないことに気付いた。たまたま出店のない日だったようだが、それだけ印象づいている証拠だと思う。</p> <p>青年部として「これに力を入れたい」という思いを持って独自色を出してやっていくことがいいのではないか。</p> <p>菜の花ウォッチングでの足湯がグレードアップし、朝市にも出ていただいて、「青年部の足湯」もひとつ根付いてきている。</p>
団体参加者	<p>個人的には独自色を出すという話に響いた。部員の中から「これをやりたい」という熱い思いをピックアップして、周りを巻き込んでいろいろやっていきたい。</p>

町の活性化について	
団体参加者	<p>自分は父が経営する会社で働いている状況である。代替えをスムーズに行うことが難しいことも念頭に置きながら、時代に合わせた販売戦略案を立て合理的時短化、品質・接客の向上に努めている。スタッフや農家の方には仕事のしやすい環境の提供を心がけ、お客様には品質を下げずによりお買い求めしやすい価格を目指している。先代たちやスタッフの思い、お客様に対する思いを大切にしたいと考えており、そのおかげか親切なお客様に恵まれ、皆さんから意見を寄せられるような状況ができていて、とてもありがたいと思っている。</p> <p>そのような中で、町の活性化について自分の取り組みを話したい。自分は障害を持つことになり当初は自分を含め家族も動揺し精神的にも大変であったが、東洋医学に基づく整体を学んだ。自分の経験や技術を活かし、体調改善・精神安定を目的に身近なところで広め始めている。</p> <p>障害者やその家族に対する精神的ケアなど、町の取り組みがあるのか聞きたい。</p>
町長	<p>障害や要介護の状態になったとき、家族のケアはとても大切で必要だと思っている。本人に対する制度はあるが、家族に対する支援やカウンセリングといったものも今始まってきている。ケアをしている家族が集まって苦労話を交わせる場があるといいと思う。そういう場があると、気持ちをほき出し、元気をもらえたと思える。町がすぐできるわけではないが、行政としても必要性を分かっている。</p>
商工観光班長	<p>この3月まで障がい者支援班に在籍していたので、状況をお話しさせていただく。ケアする家族に対する取り組みとしては、町としてではないのだが身体障害者福祉協会などの機関があり、親睦会なども開催している。</p>
団体参加者	<p>そういった情報は把握することがとても難しい。探し出さないと見つけられないということではなくて、必要な情報を一括して把握できるような整備をお願いしたい。</p>

町長	<p>障害の件だけに限らず、相談窓口の一本化や分かりやすい紹介などが課題となっている。制度などをいろいろ示しても、自分がどれに当てはまるのかといった個別判断につながる具体的な事例紹介が分かりづらいのだと思う。改善点として活かしていきたい。</p>
団体参加者	<p>町が何をやっているか分からない。町の活性化について、どう考えているのか。</p>
町長	<p>大きな事業をやったり、箱物を作ったりすることで町が活性化するかということではない。やるべきことをやるしかないのだが、何をもって活性化と呼ぶかということもある。人口減少社会となり、日本の総人口も今すぐに増加には転じない中で、活性化というとコンパクトながらもみんなが生活に満足して生きていくことなのではないかと考えている。</p> <p>行政としてやりきれないからの住民協働ではなく、行政では効果が上がらないことに町民の実行力・アイデアを活かしていきたい。</p> <p>二宮町は若い世代にとっても魅力のあるまちであると思う。子育て支援策についても近隣市町に引けを取っていないが、待っているだけで移住者が増えるわけではない。魅力をPRしていくべきであり、町全体で町外へPRしていく活動を考えている。</p> <p>商業に対する町の補助としては、商工会に対する補助金が一番大きく、それ以外に大きな施策というものがあまりない状況なのだが、この補助金が商業者の皆さんにフィットしているのか、ご意見を伺いたい。こういうバックアップをしてくれた方が活動しやすいといった意見があれば出していただいて、今後の取り組みに活かしたいと思っている。</p>

移住促進について	
団体参加者	<p>町長の話にもあったが、日本全体で人口減少、少子高齢化が進んでいる中で、町として考える町外へのPR方法とはどんなものか。</p> <p>人口ビジョンやにのみやLife、空き家バンクなどについてホームページで見ることができたが、こういうPRの取り組みについての成果や反響はどうなのか。</p>
町長	<p>空き家バンクは空き家を調査して始めたのだが、今のところ提供希望者が現れず登録物件がない状況である。</p> <p>東京などで行われる移住セミナーなどでPRすると、問い合わせを複数いただき、やればやっただけ手ごたえがある。移住希望者向けの月刊誌から取材を受け、町への移住についての記事を掲載した号が先日、発売された。次々に反応が出てきている。</p> <p>それでも、町の良さを伝えきれていないと思っている。私たちは伝えているつもりでも、相手に届いていないのであれば広く意見を聞いてより良い方法を見</p>

	<p>つけていかなければならない。</p> <p>先日、町の魅力を発信するための動画を公開したが、特徴を押し出していくための発展途上である。</p>
政策担当 参事兼企 画政策課 長	<p>町長の話にあった動画については、出演していただいた事業者の方もいらっしゃるかもしれないが、町民や町内事業者の方々へ出演募集をして応募者には出演していただいた。</p> <p>昨年からは、県が東京で開催している移住セミナーへも積極的に参加している。その際は、町職員だけではなく、実際に町へ移住された方々にも同行いただいて、生の声を届けてもらっている。始めたばかりではあるが、反響は非常に大きく、やはり職員が言っても伝えきれない部分が相手に素直に届くようである。空き家バンクについては、バンクの開始前に実際に町内を調査し、200軒程度の空き家を確認した。補助金制度を整備して始めたのだが、登録はまだない状況である。</p> <p>人口ビジョンについては、人口が減っていくという前提で活性化を考えていかなければならない。二宮町の一番の良さは人と人とのつながりにあると感じており、地域の方々が主体となって町も参加して地域の活性化を始めなければならないと考えている。</p>

収入確保策について	
団体参加 者	<p>行政の仕組みというものがよく分からない。国・県からもらうお金以外では税金収入が主なのだろう。人口が減っていく中で、支出を減らすか税収を増やすかしていかないといけないと考えるが実際はどうなっているのか。</p> <p>その中で、地域が貢献することで変わっていくことがあるのか。そういうことがあるのなら、青年部活動をやっていく中で励みになると思う。</p>
町長	<p>二宮町は個人住民税収入が主である町で、収入の少ない高齢者が増えれば税収は減ることになる。増やすためには新しい税目を作ったり増税したりとなるが、これは難しい。本来の決められたものをきちんと集めるということはやっていくが、それ以外には支出を減らすしかない。無駄を省き、事業も必要性を見極めて見直し、廃止や合理化をしていかないといけない時代である。</p> <p>小さい町ながら公園もたくさんある。町所有ではない、土地を借りている公園もあり、統合や地区管理などについて検討をしなければならない。</p> <p>楽しむ部分は残さないといけないし、全ては住民と話しながら、メリハリをつけて取り組みたい。</p>
政策総務 部長	<p>収入の約半分が住民税や固定資産税、たばこ税などの税金によるもので、他は国・県からの収入である。町の予算について説明すると、4月から翌年3月までの1年単位として、年度終了時に赤字とならないように苦慮しながらやっている。支出を削るしかないのだが、これにも限界がある。町民の皆さんとの協</p>

	働による取り組みが必要であり、ぜひ今後もいろいろ前向きに話をしていきたいと思っている。
団体参加者	町内への企業誘致といったことは考えているか。
町長	小さな町で土地が限られており厳しいと感じている。
副町長	近隣の広い工業団地からも撤退する企業があり、新たに進出を検討している企業がないとのことである。時流にうまくマッチすることで誘致ができた時代もあったが、今はそういう時代ではなくなっている。
団体参加者	生活保護の審査が他よりもゆるいため、他から生活保護受給を目的に転入してくる人が多いと聞いたことがある。賃貸住宅の大家には生活保護の関係で値段交渉する人も来るそうだ。
町長	町村部における生活保護の所管は県であり、二宮町については平塚保健福祉事務所で行っているため、二宮だけ他と比べてどうということはない。
団体参加者	生活保護の住宅補助対象が4万6千円以下の物件と決められているので、その額の中で条件のいい物件に住みたいとなると賃貸相場の低い地へ移っていくことになる。値段交渉もその一環ではないだろうか。

ふれあい広場について	
団体参加者	子ども職業体験はまだ今年で4回目の事業だが、保護者などから何か話を聞くことはあるか。
教育長	保護者から直接聞く機会は残念ながらないが、教職員からは評判のいい声を聞いており、否定的なものは一切ない。
団体参加者	自分たちの取り組みがいい方向性として感じてもらえているのか確認したかった。引き続き、子どもたちへ目を向けて取り組んでいきたい。
教育長	中学生へのキャリア教育として、地元の店で受け入れをしてもらい、地域の人たちへ発表を行っているが、小学生はこの職業体験で仕事に興味を持つことになる。ありがたい取り組みであって、ぜひ続けてほしいし、中学生の職業体験にも協力いただきたい。
団体参加者	青年部として町のためにと考えている中で、若い世代が少なくなっていて人手が足りない。町職員がイベントに積極的に関わることはできるのか。また、公共施設を使用するときに各施設へ個別に申し込みをしなければならず手間がかかってしまうことについて、手続きの簡略化などの改善ができないか。
町長	公共施設を集約した予約システムを考えているが、まだ途中である。
団体参加者	町おこしだと思っいろいろと活動している中で、ずっと町内にいる同じメンバーで考えていても閉鎖的になってきてしまう。外からの人の方が町の良さをよく分かってくれていると思っいて、町職員に限らずそういう人たちに入っ

	てもらってよくしたいと考えている。
町長	その通りできれば本当にいいと思うが、どの団体もいろいろな事業を人手不足などで持ちきれなくなってやめることになってきている。団体同士で連携していろいろ取り組めたらいい。先ほど言った子ども会との話で、子ども会も運営が大変だと聞いていて、一緒に協力できたらいいのではないかと思う。 町職員のボランティア参加については、強制することはできないが町のいろいろなことを直接知るいい機会になると思う。
団体参加者	毎日の仕事に疲れ切っていたり、最初は苦手で嫌々だったりしても、仕事以外の部分で地域の方々と関わり合うことで、すぐに生きがいとかやりがいを感じられるものであり、町職員に強制ができないにしても、そういったメリットをぜひ上層部から広めてほしい。
町長	ボランティア活動は人のためになる以外に自分を高めるものであると、毎年の新採用職員に言っている。いろいろなイベントに参加して、町の息遣いや空気感、町民の皆さんの考え方を知り、感じる事がプラスになるはずである。

町の対応について	
町長	ふれあい広場の開催に伴って、チラシに各参加店舗の固有名詞を入れると営利目的につながるので学校への配布や広報板に貼り出すことができないという町の対応があったようだ。今はそういったことはなく、営利目的というよりも町おこしとしての意義を重視し、柔軟に対応している。 毎年、山西の旧道で行っていたよさこいパレードを休止したが、今後、北口通りや駅周辺などでできないかと検討している。何かしら一緒にやってもらえたらありがたいと思う。

企業の社会的責任について	
団体参加者	事業者は利益追求だけではなく地域還元についても取り組まないといけないと考えており、企業の社会的責任（CSR）を果たすために自分なりの考えをまとめてみた。 二宮町CSR認定企業制度として、他の模範となるような活動をする企業に対し、町が評価・認定をすることで地域発展を目指すというものである。横浜市や宇都宮市、さいたま市などで実施されている。町としては地域貢献活動が活発になり、災害時の事業者との協定にも有益となる。事業者には、この認定により社会的信頼が向上し、銀行融資などでメリットが生じるようなものになることも期待できる。お金がかからずできると思われるので提案してみた。